日本将棋連盟岐阜県支部連合会　会報

飛翔 2025



飛翔発行によせて



日本将棋連盟岐阜県支部連合会　相談役
岐阜県議会議員　長屋光征

岐阜県議会議員長屋こうせいです。このたび、『飛翔』の最新号発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

私は岐阜県議会議員として、また日本将棋連盟岐阜県支部連合会の相談役として、皆様と同じく将棋を愛する一人として、将棋の普及活動や将棋を楽しめる環境づくりのお手伝いをしております。

皆様のご協力のおかげで、近年は岐阜県内でも多くの将棋に関するイベントを開催できるようになりました。

関ケ原で毎年秋に行なわれる人間将棋、2022年の将棋サミット、県庁舎20階展望台ロビーでのプロ棋士の皆さんとの多面指し、国民文化祭の将棋大会、そして、昨年のねんりんピック岐阜2025では、全国から多くの皆様に岐阜県にお越しいただきました。

また、こうした各種大会やイベントの開催を通じて、棋士や女流棋士の皆様にも来県いただき、将棋を指す方はもちろん、観戦を楽しむ方や興味を持ち始めた子供から大人まで、多くの皆様に、第一線で活躍する棋士の皆様と触れ合う機会を作ることができました。

結びにあたり、私自身もさらに段位を上げられるよう研鑽を積みつつ、勝ち負けの中にも「礼に始まり礼に終わる」という、今の時代にこそ大切な精神を広めるため、岐阜県での将棋文化の普及に引き続き取り組んでいくことをお約束して、ご挨拶とさせていただきます。

将棋の楽しさを伝えたい



岐阜県支部連合会会長
細谷　純一

2025年は60歳以上の全国将棋大会、ねんりんピック岐阜2025が開催されました。参加したのは64チームで選手は191名になる大イベントです。参加選手は勝負にこだわるのはもちろんですが、選手同士の交流の場であり掛けがいのない時間を過ごせたと思います。まさに充実した3日間ではなかったでしょうか。

さて、岐阜県には4つのシンボルがあるのをご存知でしょうか。それは県魚、県鳥、県花そして県木のことです。いずれも将棋に関連づけることができる（こじつけ？）ので面白い発見です。まず、県魚はあゆで「香魚」とも書き、将棋の香車の一部が使われています。県鳥は雷鳥で、県内の関ケ原町のシンボルでもあります。同町は徳川家康と石田三成が天下分け目の一戦を行った場所で、それに関連して「人間将棋」は毎年秋に開催されています。そして、県花はレンゲソウで花言葉に「あなたと一緒なら苦痛が和らぐ」とあります。参加者の中には棋力向上のため仲間と将棋を指し、切磋琢磨することにより人生の荒波を乗り越えた方も多いのではないでしょうか。改めて、将棋の素晴らしさが伝わります。さらに県木はいちいです。地区代表で大会に参加する者にとって、「いちい（優勝）」は大きな目標になります。このことから考えても、岐阜県は将棋に縁の深い県だとわかります。

2026年私の目標は岐阜県の全支部を訪問することです。そこで子供からお年寄りまでの将棋ファンとの交流を図り、将棋の楽しさ、勝負の厳しさを教えます。さらに私自身の棋力を向上させ、将棋の奥深さも伝えたいと考えております。

支部紹介

日本将棋連盟の岐阜県支部連合会を構成する支部をご紹介します。
岐阜県の将棋界発展のため、お近くの支部への加入を
ご検討ください。
個人情報保護の観点から、連絡先は掲載しておりません。
詳細は県連の役員や、支部会員にお尋ねください。

支部名	地域	代表連絡先
岐阜棋友会支部	岐阜	岩間龍男
岐阜将棋愛好会支部	岐阜	速水基希
岐阜県中央支部	岐阜	柴山芳之
高山将棋教室支部	飛騨	淺井泉
岐阜棋友会西濃支部	西濃	笹井義隆
可児支部	中濃	後藤和政
大垣支部	西濃	加藤肇
西濃ジュニア支部	西濃	林晃弘
中濃支部	中濃	細谷純一

岐阜県出身プロ棋士紹介

①五段　高田 明浩



生年月日　2002年6月20日
棋士番号　328
師匠　森信雄七段

抱負　今年は、着実に勝ち星を稼いで棋士として、より高みを目指す年にしたいと思っています。
具体的には、竜王戦と順位戦を中心に長い時間でしっかりと戦いたいと思っています。
もちろん短時間の棋戦も頑張ります。
好きな駒　銀です。攻受、両面で隙がない駒という印象です。初心者のとき棒銀戦法が好きだった名残でしょうか。

②四段　宮嶋 健太



生年月日　1999年8月13日
棋士番号　339
師匠　大野八一雄七段

抱負　昨年は上京し環境を変え、試行錯誤した1年でした。東京での生活にも慣れ、充実した日々を過ごせている実感があります。
今年は、昨年達成できなかった本戦進出を目標に頑張りたいと思います。引き続き応援よろしくお願いします。
好きな駒　角です。使い手によって、特性の引き出し方も違いますし、センスが1番問われる駒だと思います。

③女流初段　磯谷 祐維



生年月日　2003年1月15日
LPSA番号　23
師匠　山崎隆之八段

抱負　今年はこれまで以上に一局一局を大切にし、内容にも結果にもこだわって指していきたいです。苦しい局面でも逃げずに考え抜く力を身につけ、安定感のある将棋を目指します。その積み重ねの先に、タイトル挑戦という目標を必ず現実のものにします。
好きな駒　歩です。地味でも一歩ずつ前に進み、形を作り、最後には勝敗を左右する存在になるところが好きです。

④女流初段　山口 稀良莉



生年月日　2005年1月11日
女流棋士番号　72
師匠　中田章道七段

抱負　2026年は白玲戦の昇段を目標に、目の前の対局に向き合いたいです。将棋にのめり込む楽しさを原動力にして課題に向き合い、内容と結果の充実した一年を目指します！
好きな駒　銀です。攻めに使えるのはもちろん、美濃囲いの要になっている3八銀の形が美しいからです。

⑤女流1級　山口 仁子梨



生年月日　2002年9月17日
女流棋士番号　68
師匠　中田章道七段

抱負　今年の目標は、初段に昇段することです。ずっと目標にしている初段昇段ですが、去年も達成することができなかったので、今年は必ず昇段したいです。また、しっかりと強くなって良い将棋がたくさん指せるように頑張ります。
好きな駒　歩です。どの駒も好きですが1番は歩です。弱い駒ではありますが、うまく使えばとても強い駒だからです。

⑥女流1級　岩佐 美帆子



生年月日　2005年8月15日
女流棋士番号　76
師匠　豊島将之九段

抱負　今年の目標は、昨年より一局でも多く対局することです。対局経験を積むことで棋力を向上させ、勝ち星を増やしたいです。また、特定の戦法に偏らず、様々な選択できるよう、幅広い戦法に挑戦していきたいです。
好きな駒　角です。角交換後の打ち込みの緊張感が面白いからです。また、馬として自陣に引きつけた時の働きが好きです。



12/22
第50回　小学生将棋名人戦

50回目となった、小学生名人戦。
岐阜県代表となったのは片桐周弥くん。
3月に行われた東日本大会では予選を勝ち上がり、東日本ベスト１２と大健闘をされました。今後の活躍を楽しみにしています！

これまで小学生名人戦では
岐阜県代表は宮嶋四段が優勝、
高田五段が準優勝されています。

3/16
第16回岐阜市長杯争奪将棋大会

3月の将棋大会といえば「岐阜市長杯」
例年、様々な地域からご参加いただいております。写真はS級の入賞者の3名です。

岐阜県の大会では小中学生がとても頑張っていて、S級入賞者のうち2名は中学生です。（当時）
今後も、岐阜県支部連合会は学生さんの活躍を応援しています。





3/23
第54回支部対抗戦・個人戦
第32回全国シニア名人戦
ねんりんピック代表選考会

支部対抗戦・個人戦は、県内の各支部のNo.1を決める大会。
いつもは和気あいあいとしている支部連合会も若干ピリつきます（笑）
個人戦優勝は伊藤奨さん。支部対抗戦優勝の岐阜棋友会支部Aは西日本大会に出場し、3位入賞と大健闘されました。
シニア名人戦優勝の中島良一さんは西日本大会に出場、ベスト１６と健闘されました。



4/13
第38回アマチュア竜王戦
第30回讀賣新聞杯争奪大会

讀賣新聞社さまのご協力をいただいて毎年開催していますアマ竜王戦、讀賣新聞杯争奪大会。
今回大会優勝は伊藤優さんです。優さんには後ページで自戦記を執筆いただきました。とても読み応えのある内容です。ぜひご覧ください。

4/27　第46回中学生選手権
第27回中学生女子選手権
第24回倉敷王将戦

各大会全国大会の予選ということで、いつもより緊張感のある今大会。
優勝者はそれぞれ倉敷低学年　山田景斗くん、倉敷高学年　片桐周弥くん、
中学生選手権　伊藤誇吾くん、中学生女子安田結友さんとなりました。
全国大会では伊藤誇吾くんがベスト８となりました。





5/11　第61回全国高等学校将棋選手権/第49回高校総合文化祭将棋部門

毎年、日光コミュニティセンターを会場に行われる今大会。広めの会場ですがご覧の通り、高校生でいっぱいでした。個人戦と団体戦を行い、団体戦男子　鶯谷高校　女子　鶯谷高校
個人戦男子　優勝　神野来樹くん
準優勝　山口修生くん
女子　優勝　川田理乃さん
準優勝松田ほのかさん
となり、全国大会に出場しました。
全国大会　鶯谷高校女子準優勝　神野くん５位
山口くんベスト１６　鶯谷高校男子ベスト１６

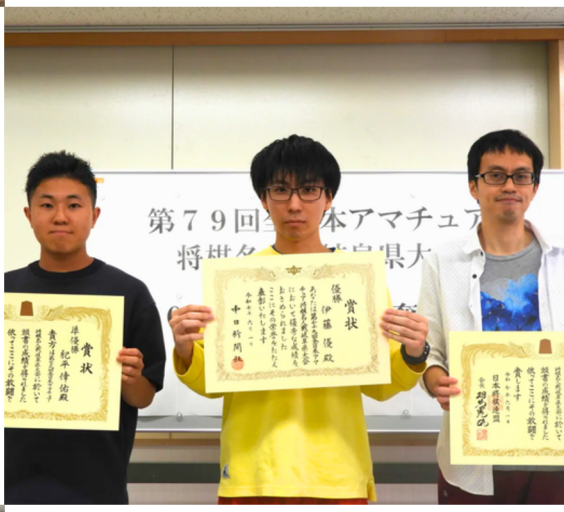


5/25文部科学大臣杯第29回小・中学校将棋団体戦ねんりんピック代表選考会

小中学校単位で団体戦を戦う今大会。
（ねんりんピック代表選考会も併催）
小学校優勝は高山市立北小学校
中学校優勝は鷲谷中学校となり、
それぞれ西日本大会に出場しました。
同じ学校で3人集めるのは大変ですがその代わり全国大会の切符が得やすい大会です。
たくさんの方のご参加をお待ちしています。

6/1 第79回アマチュア将棋名人戦

県代表を決める大会で大きなものといえばアマ竜王戦と名人戦の2つですが、2025は県アマ竜王の伊藤優さんがアマ名人戦も優勝、県アマ二冠となりました。
優さんは全国大会で決勝トーナメントに進出、悔しくも優勝の横山さんに負けてしまいましたが、ベスト１６と大活躍されました。こちらの自戦記もぜひ御覧ください！





6/15　第38回高等学校将棋竜王戦/第2回若鮎中学生将棋大会

高校竜王戦は団体戦と併催されないため、県内高校生No.1を決める戦いとなります。
今回優勝の若林卓実くんは昨年も優勝しており連覇となりました。
若林くんは全国大会に出場、予選を突破し決勝トーナメントに進出し、ベスト１６と健闘されました。



7/13
令和7年第1回定期順位戦

岐阜県で特徴的な大会といえばこの「定期順位戦」でしょう。1回から3回までの勝数に応じて図書カードがもらえる今大会。
多くの方がゲットされたことと思います。
またS級からC級までクラス分けされており、自分の棋力にあったクラスに出られると好評いただいております。

8/24
令和7年度第2回定期順位戦

第2回定期順位戦では、シルバースタージャパンの山本社長にお越しいただき、新作ゲームの試遊をさせていただきました。
ご覧の通り、こどもたちに大人気！！
こうなると対局開始のアナウンスは聞いていませんので毎回呼びに来ています。
毎回呼びに来るので、今後も楽しんで遊んでいってくださいね。





9/28
令和7年度第3回定期順位戦

1回から3回通じて、将棋指導員の方をお呼びして指導対局をしていただいています。
この指導対局は大人気！
指導員の方にはとても頑張っていただいています。
空きがあれば参加されていない方でも指導を受けられますので、保護者のかたもぜひ指導を受けてみてくださいね！



10/5
ぎふしん杯第5回岐王戦

高田五段をお呼びして開催されております岐王戦も第5回となりました。
岐王戦の部の優勝　水谷歩くん
準優勝　吉永悟くん　3位　安田清流くんは大会終了後高田五段による指導対局をうけました。
今回は新しくできた「G's　DREAM」を会場として使用させていただきました。

10/26
岐阜県将棋フェスティバル

1回から3回まで開催された定期順位戦の出場者のみが参加できるチャンピオン戦が開催されるのが今大会
「岐阜県将棋フェスティバル」です。
（一般戦はどなたでも参加できます）
毎回棋士をお呼びしており、今回は
杉本昌隆八段にお越しいただきました。
非常に丁寧で優しい指導をいただきました。ありがとうございました。



今年度も沢山の方にご参加いただきありがとうございました。
岐阜県の将棋界がもっと発展するように、
今後もご参加いただけますと幸いです。
今後も皆様が気持ちよく将棋を楽しめるように、
大会運営をさせていただきます。
なにか気になることがございましたら、運営にお気軽にご相談ください。

ギャラリー

シニア名人戦



中学生選抜将棋選手権



小学生倉敷王将戦低学年の部





小学生名人戦

支部名人戦（個人戦）



杉本昌隆八段





第３回定期順位戦Ａ級

アマチュア竜王戦
岐阜県大会



優勝　　伊藤　優

こんにちは。4月13日に行われた竜王戦岐阜県大会で優勝することができました、伊藤優です。この度、自戦記を載せて頂くということで書いていくのですが自戦記を書くのが初めてで、拙い文章なってしまうのですが最後までお付き合いください。

例年、岐阜県の代表を決める大会では、トーナメント方式ではなくスイス方式というものが採用されています。今回は参加人数23人だったので4連勝が2人でた場合は決勝戦をするという認識です。

そして全勝同士の対戦で私は柴崎元さんとの対局となりました。柴崎さんとは対戦経験が1局しかないながらも、前年度の赤旗名人戦全国ベスト８をはじめ、多くの実績をもっており岐阜県でも屈指の強豪といった印象です。それでは、事実上の決勝戦となったこの対局を振り返っていきたいと思います。

持ち時間は20分/30秒ということで序盤から悪くならないように慎重に持ち時間を使っていこうと考えていました。
私が振り駒で先手番を引き、相手の振り飛車を予想した中で居飛車を採用しました。



図１【第12手△５二飛まで】

すると図１のように後手番ながら中飛車を採用してきました。居飛車側に急戦か持久戦かの選択肢があるところですが、今回は急戦を選択しました



図2【第22手△6二銀まで】

以下先手が銀を繰り出していく手に対して後手が△6二銀としてきました。(図２)

先手側の2枚銀急戦に対して通常であれば美濃囲いに組む所ですが後手番で手が遅れているということで中央志向できました。後手は、この後△５三銀上、△５四銀まで進むと安定します。先手としてはその形を防ぎたいため、実戦は▲３七桂としました。玉形が不安定なまま△５六歩からの開戦が見えているだけに先手としてはこの数手は怖いところです。

以下数手進んで図３の局面

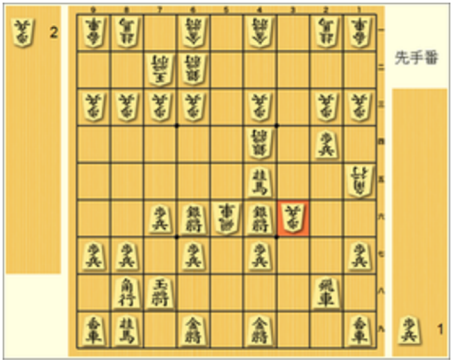


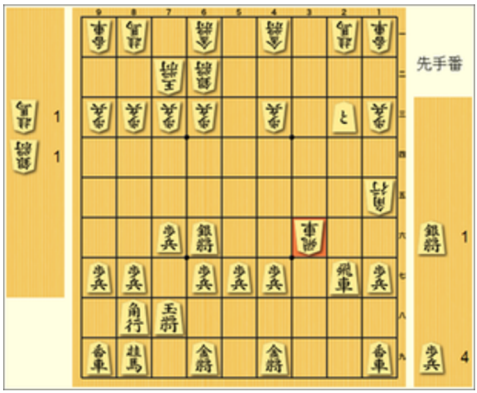
図3【第32手△3六歩まで】

ここで第一感は、▲２五飛△２四角▲５八金右でした。そうなればお互いに指す手の難しい互角の中盤戦となる所でした。この展開にあまり自信を持てず実戦は図３から▲２三歩成としましたが敗着になりかねなない悪手でした。

以下△３七歩成▲２五飛△４七と▲１五飛△４六飛と進むと明快に先手が悪そうです。

実戦は▲２三歩成に対して△２七歩だったので九死に一生を得ました。

大変長くなり恐縮ですが、以下▲同飛△２六歩▲２八飛△３七歩成▲同銀△４五銀▲５七歩△２七歩成▲同飛△３六銀▲同銀△同飛となり迎えたのが図４。



ここで▲２五飛とするのがぴったりの手。この一手で手ごたえを感じました。以下△１四銀とされ形勢自体は難解ながら居飛車の指し手がわかりやすい展開となりました。

図4【第46手△3六同飛まで】

その後は大きなミスなくリードを保ったまま勝ち切ることができましたが、序盤に課題を残す内容でした。

６月に出場した全国大会では、予選落ちとなり力不足を痛感したのと同時に初の全国大会でとても貴重な経験となりました。自分の弱点を克服して全国でも通用する力をつけるように努めていきたいです。

（棋譜は18ページに掲載）

アマチュア名人戦
岐阜県大会



優勝　　伊藤　優

竜王戦岐阜県大会に引き続き名人戦のほうも自戦記を担当します。伊藤優です。竜王戦のほうをすでに読まれた方もそうでない方も最後まで読んでいただけると幸いです。

さて、今大会も竜王戦同様にスイス方式が採用されていたのですが、全勝同士の決勝戦となった対局について振り返っていきます。

決勝戦の相手となったのは、斎藤健雄さんでした。斎藤さんは学生時代から強豪として知られており、レーティング大会など対戦経験は何度かあるものの今回久しぶりの対戦となりました。持ち時間は20分/30秒ということで序盤で作戦負けをしないように心掛けました。

私の後手番で始まりましたが、想定通りの対抗形だったので速いテンポで進み局面は(図１)となりました。



図１【第19手▲2八玉まで】

第一感は△４二金上としたい所ですが▲４七金とされたときに損得が非常に難しいところです。また、居飛車側は後手番なのでここから持久戦を目指す指し方も考えられますが、バランスが悪くなりやすいので神経を使う展開が予想されます。

先手四間飛車に対して、急戦または持久戦を選択するのかの分岐点となりましたが△７三桂として急戦模様となりました。そして、いわゆる、へな急(へなちょこ急戦)と呼ばれる構えから５筋の位をとっていく積極的な構想で進め迎えたのが(図２)。

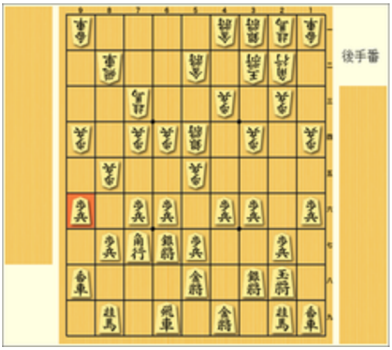


図２【第33手▲９六歩まで】

これらをふまえ、実戦は△６五歩と開戦しました。
△６五歩に対し、▲同歩△同銀と進み続く▲５九角が当然ながら▲２六角を見せた一手。本譜も以下△６二飛に対して▲２六角として(図３)。



図３【第39手▲２六角まで】

対して平凡に△６一飛と引いてこれからの勝負でしたが、実戦は△４四角。以下▲同角△同歩▲６六歩△５四銀と進んで▲７一角(図４)。・・・

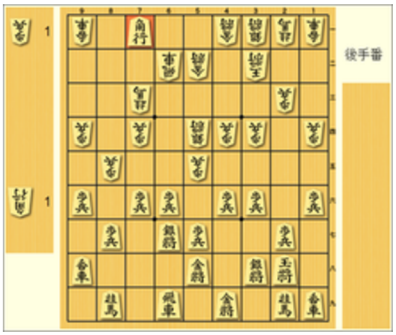


図４【第45手▲７一角まで】

この手を見落としていました。以下進んでみても形勢は早くも振り飛車優勢。評価値も振り飛車＋1000といったところでしょうか。その後はわかりやすい展開にだけはならないように、馬を作り相手の飛車にプレッシャーをかけにいき迎えたのが(図５)。　図４と比べるとだいぶ紛れてきて振り飛車がどう攻めていくかというところ。

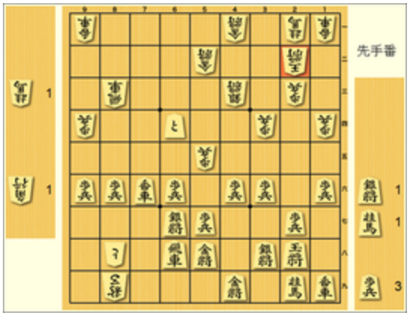


図5【第70手△2二同玉まで】

ここでの正着は▲７三香成でした。以下▲６三成香と寄せていくのが自陣の堅さを生かした着実な攻めで困っていました。実戦は▲１五歩と持ち歩を生かした筋の良い攻めのようですが振り飛車側の玉頭にも嫌味が生じるためチャンスが来たと感じました。実際の評価値を見てもこの手で一気に互角まで戻っており、将棋の難しさがよくわかります。

以下数十手進み(図６)は最終盤。ここで△３二銀としたのが勝ちを読み切った手。対して▲同金では後手玉が詰めろにならないため、▲同成桂としますが△３三飛とすると角・金を手持ちにすることができます。以下△１七香成から即詰みに打ち取り勝利することができました。粘り強く指せたことが逆転につながる結果となりました。

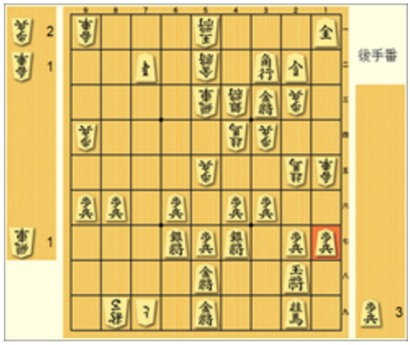


図6【第111手▲1七同歩まで】

名人戦岐阜県大会　決勝戦

（先）斎藤 健雄（　　）　VS　（後）伊藤優（　　）　（ハートフルスクエアーG大研修室　　2024.6.2）

▲7六歩	△8四歩	▲6七銀	△9四歩	▲7六香	△8九馬	▲5二香成	△同金
▲6六歩	△6二銀	▲9六歩	△6五歩	▲7三歩成	△5三飛	▲4五桂	△4四角
▲6八飛	△4二玉	▲同歩	△同銀	▲7四と	△1一香	▲3三金	△4一玉
▲4八玉	△8五歩	▲5九角	△6二飛	▲6四と	△8三飛	▲5三と	△同角
▲7七角	△3四歩	▲2六角	△4四角	▲2二馬	△同玉	▲同桂成	△同飛
▲7八銀	△3二玉	▲同角	△同歩	▲1五歩	△同歩	▲2二桂成	△5九と
▲5八金左	△5二金右	▲6六歩	△5四銀	▲1三歩	△1六桂	▲同金寄	△4四桂
▲3八玉	△1四歩	▲7一角	△8六歩	▲同香	△同歩	▲7二香成	△2五桂
▲1六歩	△7四歩	▲同歩	△8七歩	▲1四桂	△3二玉	▲3二角	△5一玉
▲2八玉	△7三桂	▲7五歩	△8八歩成	▲1二銀	△1五香	▲4七銀	△1七歩成
▲3八銀	△6四歩	▲7四歩	△6三飛	▲1一銀成	△1三桂	▲同歩	△3二銀
▲4六歩	△5四歩	▲4四角成	△4三銀	▲1八歩	△7七歩	▲同成桂	△3三飛
▲3六歩	△5三銀	▲1一馬	△2二銀	▲6九飛	△7九と	▲同成桂	△1七香成
▲6九飛	△5五歩	▲1二馬	△8七角	▲5九飛	△7八歩成	▲3九玉	△2八角
③▲9八香	△5四銀	▲6八飛	△9八角成	▲5四香	△6九と上	まで118手で後手の勝ち	

竜王戦岐阜県大会　決勝戦

（先）伊藤優（　　）　VS　（後）柴崎元（　　）　（ハートフルスクエアーG大研修室　　2025.4.13）

▲2六歩	△3四歩	▲2四歩	△3六歩	▲9六銀	△9四歩	▲8四歩	△8二香		
▲2五歩	△3三角	▲2三歩成	△2七歩	▲7五銀	△4二角	▲2五歩	△1四龍		
▲7六歩	△4二銀	▲同飛	△2六歩	▲8四銀	△同歩	▲2四歩	△2五龍		
▲4八銀	△5四歩	▲2八飛	△3七歩成	▲1一角成	△6四角	▲3五歩	△4三歩		
▲6八玉	△5五歩	▲同銀	△4五銀	▲1三と	△1五銀	▲8三銀	△同香		
▲3六歩	△5二飛	▲5七歩	△2七歩成	▲1四と	△1七龍	▲同歩成	△同玉		
▲3七銀	△5三銀	▲同飛	△3六銀	▲1五と	△5一歩	▲8四香	△9三玉		
▲4六銀	△4四銀	▲同銀	△同飛	▲8六香	△1五龍	▲5二香成	△8二歩		
▲7八銀	△6二玉	▲2五飛	△1四銀	▲6六馬	△7一銀	▲6六馬	△8七銀打		
▲7七銀	△7二玉	▲4五飛	△3七飛成	▲5六香	△8七桂成	▲6八玉	△5二金		
▲6六銀	△6二銀	▲4三飛成	△2八龍	▲同銀	△8五歩	▲6一角	△7二桂		
▲3七桂	△5六歩	▲5八金右	△5二金左	▲7五桂	△8六歩	▲8二香成	△同玉		
▲同歩	△同飛	▲3二龍	△1九龍	▲同銀	△6五銀	▲8三歩	△9三玉		
▲7八玉	△3五歩	▲2一龍	△8四香	▲4四馬	△7五角	▲7二角成			
▲4五桂	△1五角	▲5九桂	△9五桂	▲同銀	△7六銀	まで117手で先手の勝ち			

自戦記

アマチュア名人戦
全国大会

岐阜県代表　　伊藤　優



県大会に引き続き全国大会の振り返りをしていくのでもう少しお付き合いください。
アマチュア名人戦全国大会は9月13.14日に開催されました。一般の全国大会の出場は私自身6月の竜王戦ぶりとなります。竜王戦では、1勝2敗で予選落ちと全国の壁の高さを身をもって実感しました。岐阜県代表として今回もふがいない成績では帰れないなぁと勝手にプレッシャーを感じており、予選突破を最低限の目標としていました。
ということでいよいよ大会がはじまり、予選の1局目から振り返っていきたいところですが、棋譜を再現できるのが本大会を通じて1局だけしかできませんでしたので、その他は内容に軽く触れることしかできませんがご了承ください。

予選リーグは抽選により4人1組のリーグができ2勝通過、2敗失格のよくある形式です。初戦が重要だと気合を入れ対戦相手を確認すると、なんと前年度名人の関矢さんでした。
(竜王戦の時の初戦は前年度準優者の荒田さんでした)
だれと当たっても厳しいことに代わりないですが、竜王戦に続いて勉強させていただく気持ちの初戦でした。そして対局が始まり、先手番をひくことができたので先手中飛車をすると、お相手は居飛車の持久戦模様からの穴熊を選択。格上相手に堅さ負けしてはいけないと考え相穴熊の戦型になりました。中盤までは互角の進行ながら、1手の緩手をとがめられ苦しい展開となり、正確な指しまわしを前に大差での終局となりました。

予選突破に向けて後がなくなった2局目は終盤まで激戦もなんとか勝利。そして勝てば予選突破・負ければ予選敗退の３局目は、終盤に悪手をさしながらもなんとか粘って逆転勝利。
全国大会初の予選突破を決めました。内容は決していいものではなかったので翌日の決勝トーナメントでは内容のよい将棋をさすことを目標に向かいました。
そして、ベスト16をかけた一戦では中盤以降ペースをつかむと緩めることなく勝ちきることができました。非常にうれしい一方、ここまできたらプロ棋戦にも出場できるベスト4が目標となってきました。

ベスト８をかけた１戦はアマ棋戦の優勝回数が幾度とある横山さんでした。

本局も先手番をひいたので先手中飛車を採用し(図1)のように進みました。△８五歩がついていないため６四歩、６三銀、７四銀、８五銀の含みがあることと、二枚銀急戦の可能性もありどちらも警戒したため、▲４八銀と中央を厚くする方針にしました。

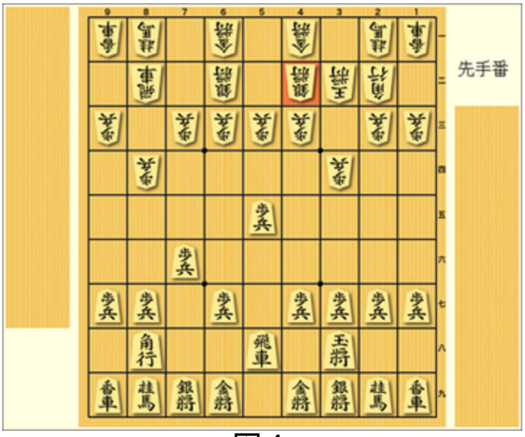


図１

さらにそこから数手進み(図２)は方針が難しいところ。▲６八角から駒組を進めるのが無難であるが居飛車はその間に穴熊へと発展することになるため勝ちづらいと判断しました。
そこで本譜は勢い６五銀右と開戦していきました。



図２

図２からかなり進んで図３は▲６四銀とでた局面です。中飛車側の駒がさばけていていて難しいながらもかなり手ごたえがありました。ここで本譜は△８六飛ときりとばしてきました。

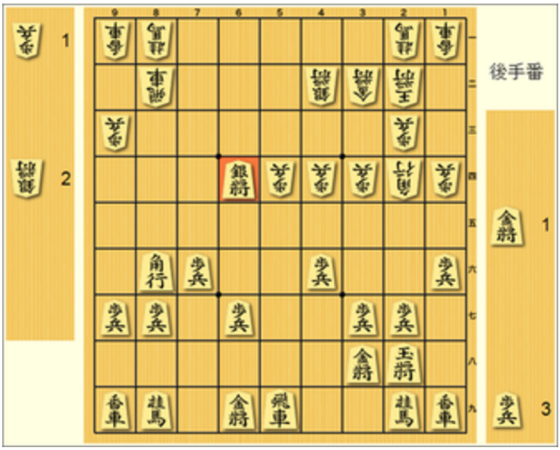


図３

感想戦でも仕方なくといった感じであったようでこの後の数手を上手くまとめることができれば勝てそうと思い、以下▲同歩△４五歩▲８二飛△７四角と進み（図４）



図４

正着は▲５六歩でした。▲５三歩という攻め味がなくなり長期戦になるため大変かなと考えていた結果秒に追われて実戦は▲８一飛成としてしまいます。完全にやらかしたと感じました。以下△４六歩▲４八歩△４七銀と攻め込まれ、そこでの▲５六歩が敗着となり押し切られました。中盤まで上手くさせていただけに悔しい結果となりました。
大会を通じて内容がよかったなと思えるものはありませんでした。秒読みの中での精度が低いことを体感し上位との差を感じると共に、向上させていきたいと思いました。

来年も全国の舞台に戻ってこられるように日々精進します。
ありがとうございました。



遠回りしながらも、
もがいて身につけたものの
方が、簡単に得たものより
も後々まで役立ちます。
羽生善治

日本将棋連盟岐阜県支部連合会　会報

飛翔 2025

発行　日本将棋連盟岐阜県支部連合会
編集者　細谷純一　西部詩織

発行日　2026年2月10日